

人文・社会科学系の科目群とその科目構成等について

科目群	関連領域	内容 第1階層	内容 第2階層（カッコ内は科目例）	内容 第3階層
真・善・美 と人間形成	哲学 西洋哲学史 日本思想史 東洋思想史 倫理学 宗教学 美学 芸術学 教育学	京大生のひとりひとりが、人間として、何を学び、どのように生きるべきかを、自分自身の問題として考えるきっかけを与えることを目標とする。過去の哲学者や思想家の考えを参照しながら、主体的に自己を形成することを促す。 科目例：哲学入門、人間学	○真理探究の営みとしての哲学を、認識や論理、言語の問題を通じて、また科学や宗教との関わりを通して学ぶことで、学生は、世界と人間について根源的に理解する能力を高める。（哲学基礎論、論理学基礎論） ○「善く生きる」とはどのようなことか、そのためには人間はこれまでどのような探求をして来たかを学ぶことで、学生は、倫理的に生きることの理解を深める。（倫理学基礎論） ○絵画や彫刻、音楽や舞踊、更に建築や装飾などの分析を通じて、美的な感受性の在り方を理解し、種々の表現活動を批評的に理解する能力を高める。（美学入門・芸術学基礎論） ○教育や人間形成に関わる事象を心・人間・社会との関わりを通して学ぶことで、教育と人間の活動についての見方や考え方を身につける。（教育学基礎論）	科目例： 現代思想 応用倫理 専門職倫理 ライフサイクルと教育 科学史・科学哲学
歴史と文化	歴史学 日本史学 西洋史学 東洋史学 考古学 西南アジア史学 南アジア史学 東南アジア史学	人類の歴史を地球規模で問うてみることで、現代に生きる人間としての自分を問い直し、歴史的存在としての自分について考えさせることを目標とする。また、歴史学とはどのような学問であるかを、実際の史料の収集や分析といった基礎的作業をも体験させながら、身に付けさせる。 科目例：歴史学入門、史料学入門	○地球規模の空間的な広がりの中で、様々な文明のダイナミックな運動の連関として、歴史を捉えることを学ぶことで、人類の歴史についての理解を深める。（文明史総論） ○古代という歴史区分を設定して、考古学についての知識を深めるとともに、世界の諸文明の歴史を、横断的に学ぶことによって、文明の構造や展開についての理解を深める。（考古学基礎、古代史基礎論） ○中世という歴史区分を設定して、世界的な文明の広がりの中で、王権の伸張や宗教の伝播といったことについて考察する能力を高める。（中世史基礎論） ○現代世界を生きるわれわれにとって、グローバル化がもたらす一元化と、それとともに激化する文明の衝突は、ますます深刻なものとなっている。そのような対立の構図を生み出した近現代という時代についての理解を深める。（現代文明論基礎）	科目例： 比較文化論 植民地主義と帝国主義 比較教育史
文学と言葉	言語学 文学 日本文学 中国文学 西洋文学 西洋古典学 東洋古典学	言語と、言語によって生み出された文学、神話、伝承、記録などの分析を通じて、それらを人間の精神が生み出したものと捉えることで、人間と世界についての理解を深めることを目指す。 科目例：文学とは何か、言語学入門	○人間の精神が生み出した最たるものとしての言語と、人類が生み出してきた諸文化との関係についての理解を深める。（言語学入門） ○古典から現代文学まで、日本語で語られ、また書かれた文学作品の分析を通じて文化的表現についての理解を深める。（日本文学総論） ○古典から現代文学まで、様々な言語で語られ、また書かれてきた世界の文学作品の分析を通じて文化的表現についての理解を深める。（西洋文学入門、東洋文学入門） ○言語そのものの構造や、諸言語の歴史的な発展と連関などについて理解を深める。（言語学総論、比較言語学入門）	科目例： 印欧比較言語学 日本語の歴史 文芸批評の現在
人間の行動 と社会	心理学 社会学 地理学 人類学	人間の行動を、様々なアプローチ心理学、社会学、地理学、人類学から捉える方法を、学生に身に付けさせる。学生に、人間という社会的存在が、様々な機構や集団の中で組織化し、多様性をもって存在するようになることの自覚を促す。 科目例：人間の行動と社会 I、II	（例として学問分野の細目を並べておく。）心理学（実験心理学、応用心理学、発達心理学、臨床心理学、健康心理学、精神分析学、教育心理学）、社会学（社会学基礎論、地域社会学、臨床社会学、教育社会学、歴史社会学、宗教社会学、ジェンダー論）、地理学（自然地理学、地域地理学、人文地理学、環境論）、人類学（社会人類学、宗教人類学、文化人類学、神話学、現代人類学）	科目例： 人種・エスニシティ論 メディア文化論 都市論 認知科学

科目群	関連領域	内容 第1階層	内容 第2階層（カッコ内は科目例）	内容 第3階層
法と政治	法学 政治学	<p>法や政治が人間社会において果たしている役割や機能を理解し、法的・政治的な見方・考え方を学ぶことを通じて、現代社会の課題を広い視野から制度的に考察する必要性を認識させるとともに、社会の一員として自己が果たすべき役割について気付かせることを目標とする。</p> <p>科目例：法と政治 I、II</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○国家の統治活動を規律する法、市民生活や家族生活に関する法、あるいは学生生活等に関わる身近な法の基本的な考え方や仕組みを学ぶとともに、法の基礎や背景を検討することにより異なる法の在り方や法の役割の限界を考える。（法学基礎論） ○政治制度の基本的な仕組み、政治に関わる個人や集団の行動様式や意思決定の在り方等を学ぶとともに、現代社会における政治的課題を取り上げて、その背景や根底にある価値の対立を明らかにし、解決のための方策について考える。（政治学基礎論） ○国際社会を成り立たせている基本的な秩序の在り方、国際的な紛争の要因や構造、国際的な紛争を解決するための基本的な仕組み、現在、地球規模で生じている課題とそれに向けた国際社会の対応の在り方などについて考える。（国際関係論） 	<p>①他の専門分野に関連する法や規範を学ぶ科目 （例）知的財産と法 生命倫理・医療と法 都市計画と法 環境と法</p> <p>②裁判の実際や法律家の役割について学ぶ科目 （例）犯罪と刑罰 民事裁判の仕組み</p>
経済と社会	経済理論（近代経済学） 経済理論（社会経済学） 現代経済事情 経済史 経営学	<p>失業や不況など身近な問題から、ソ連、東欧諸国の社会主義計画経済から市場経済への転換のような制度変革の問題など経済学が扱う問題は広範で複雑である。経済現象を理解するためには基礎的な経済理論に習熟することが不可欠である。また、現実の諸問題を対象として総合的・多角的に問題に接近すること、歴史的視点から社会経済問題を見るということも等しく重要である。</p> <p>科目例：経済学入門 I、II</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市場価格の働きによって資源が配分される価格メカニズムの仕組みについて理解を深める。GDP、雇用、物価水準がどのように決定されるか理解を深める。（経済学基礎論A） ○その生成過程を含む歴史的過程としての資本主義の分析、制度の違いによる資本主義の多様性について理解を深める。（経済学基礎論B） ○複雑な経済現象を理解するには、理論的基礎の習得だけではなく、現実の諸問題を対象として総合的・多角的に分析することも重要である。この科目では、現代の諸問題の中から政策にかかわるトピックスを取り上げ、現代の諸問題に対する経済学的見方を学ぶ。（現代経済社会論） ○政治制度や社会文化との関連を視野に入れて、原始時代から現代に至る期間について生産力と生産関係を考察し、歴史的視点から社会経済問題を見る見方を養う。（社会経済システム論） 	<p>科目例： 経済哲学 医療経済学 交通経済論 都市経済学</p>
		<p>多くの学生は就職して会社や役所など組織の中で人生のかなりの部分を過ごす。また、中には会社を起こす人もいる。経営学は企業組織、自治体など組織を研究対象に、様々な分析手法を用いて多面的・総合的に組織を研究する学問である。経営という社会現象について学ぶことにより、高度な判断力と実践力を涵養するための基礎の習得を目標とする。</p> <p>科目例：経営学入門 I、II</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○企業組織をはじめとする組織を研究対象とする経営学を中心に、会計学、マーケティング、労務管理などをも併せて学び、現代の様々な組織体の運営について理解を深める。（経営学基礎論A、B） 	<p>科目例： 事業創生</p>